

「夢に向かって」

札幌農学校を去るとき、クラーク博士が学生に対して「boys be ambitious!」という言葉を増ったといわれます。その「boys be ambitious!」というタイトルで教え子の内村鑑三が北海道大学で講演をなさった。その中で内村はこのようにことを言っています。「"Boy"とは年齢的に若い人のことではない。"ambitious"を持っている人間の事である。だから今私は 67 歳であるが今も私は"Boy"である。"ambitious"とは単なる『大志』ではない。それは『将来自分が成し遂げようとする仕事をしっかりと見る精神である』

「将来自分が成し遂げようとする仕事をしっかりと見る精神」新たな進路へと進まれる皆さんは、ほんとうにこのことで悩んだことでありましょう。そして、今も悩んでおられることだと思います。なぜなら、私たち、将来自分が成し遂げようとする仕事をしっかりと見るということが苦手で、難しいことだからです。

ambitious を持つ。それは心の持ちようということではありません。今日記されていたパウロがフィリピの人の為に祈っていることはまた、パウロ自身、心がけていたことでありました。「私はこう祈ります。知る力と見抜く力を身につけて、あなた方の愛が益々豊かになり、本当に重要な事を見分けられるように。そして、キリストの日に備えて、清い者、とがめられるところのないものとなり、イエス・キリストによって与えられる義の実あふれるほどに受けて、神の栄光と誉とを称えることができるように」

「イエス・キリストによって」という言葉があります。イエス・キリストによって知る力と見抜く力を身につけるように。イエス・キリストによって愛が益々豊かになるように。イエス・キリストによって重要な事を見分けられることができるように。

本当はクラーク博士が“Boy's be ambitious”と言ったとき、それには続きがあったと言われています。“Boy's be ambitious in Christ”つまり、「キリストによって、少年よ大志を抱け」とクラーク博士は語ったのだと言われています。ただ、なんとなく大志を抱くのではない。ぼんやりと「将来自分が成し遂げようとする仕事をしっかりと見る」のではない。キリストによって、そのことを見るのです。イエス・キリストがお示しくださった生き方、福音、その方全てによって、私たちは ambitious を抱くのです。いや、本当は「将来自分が成し遂げようとする仕事をしっかりと見る」ことなど私たちはできない。それが出来る道があるとするならば、パウロが祈るように、またクラーク博士が教え子に伝えたように、ただキリストによることです。

卒業される皆様が、神様の祝福の内に、豊かな人生を歩まれることを、一日一日を過ごされることを祈っています。